

資料 4

令和 2 年度実施 市民提案型協働事業

事前意見交換中間確認書

事業名	
提案団体名	事業担当課
平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業	
NPO 法人フードバンクひらつか	環境政策課
バリアフリーサポートサイト構築	
NPO 法人 湘南ふじさわシニアネット	交通政策課

## 令和2年度実施 市民提案型協働事業 事前意見交換(中間・結果)確認書

事業名	平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業	
実施主体	団体名	NPO法人フードバンクひらつか
	事業担当課	環境政策課
意見交換の概要	<p><b>【提案団体の考え方】</b>            本提案は、市民全員が取り組んでいく「食品ロス対策」への関わりを入口に、その延長線上に本団体の活動目的である相対的貧困世帯への支援を位置づけるものです。これまで特定の者から直接的に食品等の支援を受けてきましたが、本提案のようにアプリの使用料をいただくことで、間接的に支援の輪を広げられる可能性があります。市と協働事業により、サービスに対する必要性や信頼性が増すものと考えます。</p> <p><b>【担当課の考え方】</b>            食品ロス対策は世界的に挑まなければならないテーマの1つです。            本提案は、市民団体の協力を得ながら、市民及び事業者による食材の使い切り、過度な鮮度志向の抑制といった行動を促し、廃棄物（生ごみ）の減量につながる取組になると考えます。サービスの受益者は平塚市全市民です。サービスの認知を高め、裾野を広げることができれば、結果的に貧困対策の一助にもなると考えます。</p>	
事業実施に向けての課題と対応	<p><b>【確認できた現状の課題】</b>            本提案のサービス受益者と既存のフードバンクひらつかのサービス受益者との関係性において、一部整理が必要な点があります。</p> <p><b>【確認できた課題への対応など】</b>            本提案の整理として、平塚市全市民を対象とした食品ロス対策であることを主たる目的とします。食品ロス対策による減量効果を第一義的な目標とし、副次的に相対的貧困世帯への影響をアンケート等で把握する方向で事業提案書を推敲します。</p>	
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>■①来年度実施協働事業として提案予定</li> <li>□②今年度中に実施</li> <li>□③団体単独で実施</li> <li>□④行政単独で実施</li> <li>□⑤現在、提案するか保留・検討中</li> <li>□⑥他の制度を活用</li> <li>□⑦提案、及び、実施をしない（実施への課題等を今後も双方で協議）</li> <li>□⑧その他（ ）</li> </ul>	
上記で協働事業として提案しない場合等の理由	協働事業での実施が困難な理由などを具体的に記入してください。	
事業実施に向けての改善策	事業の成果を数値目標化することが、事業内容を推敲する上で重要であると考えます。アプリを使用した「食品ロス対策」の効果を測定する上でのぞましい評価項目、評価手法を検討します。	
協働推進課調整事項		

## 令和2年度実施 市民提案型協働事業 事前意見交換(中間・結果)確認書

事業名	バリアフリーサポートサイト構築	
実施主体	団体名	認定NPO法人 湘南ふじさわシニアネット
	事業担当課	交通政策課
		<p><b>【提案団体の考え方】</b></p> <p>審査委員からのご意見（市民のニーズの有無、サイトの具体的なイメージ、維持管理コストの概算と負担方法、福祉・子育て部門との連携）や担当課からのご意見（平塚市への提案の動機、平塚市のメリット、協働でやるメリット、わくわくマップとの差別化は？）につき縷々ご説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>市民のニーズ</u>に関する具体的なデータは持ち合わせていない。一般情報としては「車いすユーザーの90%が、外出時に施設のバリアフリー情報を調べている」（バリアフリー情報共有アプリ「Bmaps」調査）があり参考とした。</li> <li>・<u>サイトの具体的なイメージ</u>は、PowerPointにて施設のバリアフリー整備個所の画像、目的地までのルートをマップ上に示し、更にルート上に注意コメントや画像あるいは動画にてビジュアルでシームレスな情報提供をするコンセプトをご説明。なお、高齢者や障がい者等の歩行が制約される方への案内をステップ1とし、次に、音声案内など視覚障がい者の方への案内をステップ2として、段階的な整備を予定。</li> <li>・<u>維持費について</u>は今の段階で算出が難しいが、協働事業終了後の保守管理費用は、経験値から年間40～50万円程度と思われる。</li> <li>・<u>福祉部・子育て部門などの他の関係部署との連携</u>は、担当課ともご相談の上ご指摘通り進めさせていただきたい。</li> <li>・<u>平塚市との取組理由</u>は、バリアフリー基本構想の策定がいち早く、大空襲後の市街区設定で現在の広い道路・歩道に、バリアフリー化を推進していることをPRしていき易い街であり、平塚市との協働事業としては、「ひらつかスポーツナビ」で実績があり提案団体ととり親しみやすいパートナーであるといった点である。</li> <li>・<u>平塚市のメリット</u>は、今後「人口減少社会」「高齢化社会」「成熟（豊かさ・質重視）社会」に突入し、住みやすいをめぐって自治体間競争が生じてくる。その中で市民目線でワンストップのバリアフリーサポートサイトの役割は、市民の暮らしの向上に繋がり、先進取組事例として評価され、平塚市の魅力アップに繋げていけるのではないかと思われる。</li> <li>・<u>協働でやるメリット</u>は、このサポートサイトでは、公共施設に留まらず、ルート上の商業施設や整備の対象外である小規模店舗も対象にする事により、利用者の利便性向上と整備対象の広がり効果も出る。一方サイト利用者が経験した不足な情報や改善点を投稿可能な仕組みを提供する事により、事業者側へのフィードバックを通じて事業の質の向上に繋がる。</li> <li>・<u>「わくわくマップ」との差別化</u>については、わくわくマップの一覧性は評価できるものの、目的の場所と危険場所との位置関係がイメージとしてわかる程度で、車いすの方がこれを見て最短かつ安全でスムーズに目的地まで移動できるとは思えない。一方、ポータルサイトは起点からのルート、公共交通利用の場合の乗降場所、歩行の場合の曲がり角や危険場所、目的地までの段差情報、経路途中の店舗のバリアフリーの整備情報等画像や動画を用いてシームレスに情報提供できるようにしたいと考えている。</li> </ul>

	<p><b>【担当課の考え方】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民のニーズについて、高齢者の人数や高齢者のスマートフォンの所有率等を踏まえてもらいたい。なお、市でわくわくマップ「バリアフリー」のアクセス数は確認できる。</li> <li>・サイトについて、目的地への移動には、路線バスやタクシーを組み合わせた移動も想定されるため、ポータルサイトに、市内のバリアフリーの情報（ノンステップバスやUDタクシーの普及状況等）の掲載やホームページのリンクの添付を検討してもらいたい。</li> <li>・平塚市のメリットについて、バリアフリーと併せて平塚市のシティープロモーションを広くPRできる視点での作成を検討してもらいたい。</li> <li>・施設からバリアフリー情報を取得する際には、協働事業としてお願いすることになり、公共施設や自治会等は行政が、民間施設は活動団体が主に提供をお願いすることを想定している。</li> <li>・協働事業終了後の費用について、市はサイトの利用動向を見ながら、予算確保に務めるものとし、現時点では確約できない。</li> </ul>
<b>事業実施に向けての課題と対応</b>	<p><b>【確認できた現状の課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 情報伝達手段の中心はスマホやタブレットと想定されるが、所持している人の数やスキルに問題があると思われる。</li> <li>② 市民のニーズが重要であり、サイトに継続性を持たせることが重要である。サイトの利用促進や利用できない方への情報発信が課題である。</li> <li>③ 協働事業終了後の費用について、市の負担が確約されていない。</li> </ol> <p><b>【確認できた課題への対応など】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 対応策として市内のNPOやボランティアと協働してスマホ、タブレットの講座を低料金で実施することによりスキル習得と人数の増加を図る。藤沢市や茅ヶ崎市ではこのような講座を頻繁に実施しており定員を超えることも屡々あることをみても有効であると考える。</li> <li>② 利用促進について、行政の広報、関係部局との連携による周知、インターネットによる周知等により、幅広く行う。合わせて、サイトを利用できない方には、紙媒体（バリアフリーマップ）の作成を検討する。</li> <li>③ 活動団体は、商業施設や店舗の広告料が運営費に充てられるのかを検討する。市は、サイトの利用動向を見て予算確保に務めるものとする。</li> </ol>
<b>今後の展望</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ①来年度実施協働事業として提案予定 <input type="checkbox"/> ②今年度中に実施 <input type="checkbox"/> ③団体単独で実施 <input type="checkbox"/> ④行政単独で実施 <input type="checkbox"/> ⑤現在、提案するか保留・検討中 <input type="checkbox"/> ⑥他の制度を活用 <input type="checkbox"/> ⑦提案、及び、実施をしない（実施への課題等を今後も双方で協議） <input type="checkbox"/> ⑧その他（ ） )
<b>上記で協働事業として提案しない場合等の理由</b>	協働事業での実施が困難な理由などを具体的に記入してください。
<b>事業実施に向けての改善策</b>	
<b>協働推進課調整事項</b>	